

「3年間の学生生活」

北海道学生卓球連盟 幹事長 水澤侑太郎

この度は3年間の大学生活を振り返り、大学や学連を通じて感じ、学んできたことを読者の皆様と共有できたらと思います。

大学1年の間はコロナがまだ流行っていた時期であり、前期は部活が活動していませんでした。後期で再開したものの、なんとなく部活に参加するタイミングをつかめず、周りの部員ともまだ上手く馴染めませんでした。2年の途中からは部活にも参加し、次第に同期とも仲良くなり、プライベートでも遊ぶ機会が増えてきました。この頃から大学生活も部活を中心に回り始め、大学が無い時間は常に部活の誰かと遊んでいました。3年になると新しく後輩が入ってきたので部活がより一層にぎやかになりました。新1年が非常にアクティブで、2個上である私達3年にも遠慮せず遊びに参加してくれたのが個人的には非常にうれしかったです。

北海道大学は私を含めて道外出身の学生が多く、卓球部もほとんどが一人暮らしをしていました。こういったわけで、門限も時間の制限も、時間の制限すらない私たちは部活以外にも毎日様々な遊びに明け暮れました。フットサル・麻雀・ポーカー・映画・ボーリング・カラオケなどなど、他にも挙げればきりが無いほど遊び倒しました。間違いなく、部活動をした時間より卓球部の誰かと卓球以外の事をした時間の方が長いです。

そんな遊びに明け暮れていた私ですが、3年になると学連の幹事長になり、かなり忙しく苦労する日も多くありました。プライベートの時間だけでなく、大学の授業中も作業をする必要があったり、作業が終わらず遊びに参加できなかつたりと精神的にきつい時期がありました。ミスも多くなり、周りの人に迷惑をかけてしまうことが何度もありましたが、他の幹事に支えられ何とか今年度の事業を完遂することができました。とくに多くの業務をこなし支えてくれた副幹事長の竹内君、唯一の同期にして会計業務を一身に引き受けてくれた会計の小森谷さん、幹事長の役割を全うし引退したにもかかわらず不甲斐ない後輩のサポートをしてくれた前幹事長の紙井さんには感謝してもきれません。

私の3年間の学生生活を振り返って改めて「人に恵まれた」3年間だったなと感じます。多くの人と関わり、支え、支えられながら学生生活、部活、学連での活動を行っていました。最近では同期が部活を引退し始め、4年の先輩も就職で北海道を離れることが決まった人も何人かいます。そういった人たちも会いたいと思えば会えるのでしょう。しかし、そういった機会も滅多にあるものではなく、人によっては何十年後、もしくは今後一生会う機会が無い人も出てくるのかもしれない。こういったことを考えるとともしんみりした気持ちになります。私も引退する時期を考えなければなくなり、今まで面白おかしく過ごしていた大学生活が終わる時が近いのだと感じます。ですが、後悔は一切なく最高の部活動生活、卓球人生だったと誇りを持って言えます。

末筆ではございますが、このような文章を書く機会を設けていただいた日学連の皆様、最後まで拙い文章を読んでくださった読者の皆様に感謝申し上げます。